

【要約版】

令和5年度 第1回高島市図書館協議会

開催日時：令和5年6月12日（月）10時30分～12時

開催会場：高島市立今津図書館 視聴覚室

出席：國松委員、平松委員、山本（恵）委員、梅村委員、吉川委員、福原委員、
井上委員、山本（永）委員、菅井委員、本村委員

事務局：木下教育総務部長、玉木館長、志村主監、原田

欠席：田川委員

1. 教育総務部長あいさつ

・図書館協議会委員の皆さんには、これから2年間お世話になります。

これからの2年間、委員の皆様には、図書館やそこを利用いただく市民の皆様が本にもっと親しんでいただけるよう、忌憚のないご意見をお願いしたい。

2. 各委員自己紹介（省略）

3. 会長副会長の選出 *任期は令和7年3月31日まで。

・会長：國松完二委員 ・副会長：平松成美委員

会長あいさつ

・読売新聞本日の朝刊で、学校図書館への交付税措置57%という記事があった。滋賀県は、新聞記事ほどひどいとは思わないが、どこの自治体でも国からの交付額をそのまま学校図書館に充てているところはほとんどない。

公共図書館にも同じように交付税措置のお金が来ている。国から来ているお金に自治体が自前で足してだいたい倍の予算額になる。特に滋賀県内は、だいたい交付税額の2.5倍くらいお金をかけている。つまり自治体は国から来るお金以上に、持ち出して本代に充てているということ。地域で格差がある。

国の調査で、30.40代の大人に、「子供の時に読んだ本で色々と自分の生活に影響を与えたものがあるか？」というものがあった。子どものころに読んでもらった、または自分で読んだ本は、記憶に残っており、生活の役に立っているという答えが出ていた。

それぞれの地域で、子どもたちの読書をどう支えていくかということを考えていかなければいけない。今子どもたちには、タブレットが配られている。そのような中で活字図書の必要性をどのように伝えていくかが課題。

*以下、協議事項内容と質疑応答等。（○=報告内容 ●=委員意見 ⇒回答）

4.協議事項Ⅰ：令和5年度高島市立図書館運営方針について

○資料P11「令和5年度 高島市立図書館運営方針」

1.「市民の要求、課題解決に役立つ資料・情報の提供」

図書館だからこそできる情報提供に努める。

2.「より多くの市民の利用促進」

図書館の存在について、これまであまり関心を持たれていない市民の方への情報発信に力をいれる。

3.「子どもと本とをつなぐ読書活動の推進」

子どもたちの人生の節目節目に「本との出会い」を提案できるよう、子ども園や学校と連携をとる。

4.「市民の地域づくり、まちづくり活動への支援」

関係団体（おはなしサークルや読書会等）と引き続き協力し、活気ある図書館づくりを進める。

5.「運営体制の改善と職員の資質向上」

4月から正規職員1名減で運営している。より良いサービスを利用者に提供するために、これまで以上に助け合い、組織力の向上を目指す。

6.「図書館機能の維持」

今年度は、今津図書館冷暖房機器改修工事（冬期に約2ヶ月間）、安曇川図書館の屋根・外壁修繕工事の設計業務を予定。より良い読書環境を提供させていただくための工事。昨年度に引き続き長期休館なので利用者の皆さんにはご不便をおかけすることになるがご協力をお願いしたいと考えている。

○P12 「令和5年度当初予算」

・予算全体としては、図書館維持補修事業今津安曇川館の工事のため、前年度と比べ約4000万円程度増額。

・今年度より、会計年度任用職員の給与を、各図書館管理運営事業から市立図書館運営事業に変更したため、それぞれに増減がある。市立図書館運営事業に変更することにより、会計年度任用職員が市内どの館にでも勤務でき、必要な時に必要な館に人員を送ることができることで、各館をより機能的に運営できるようになる。

○P13~19 「令和4年度図書館運営状況」

- ・来館者数や貸出冊数、予約件数など、減少しているが、安曇川今津館が工事のため長期休館をしていたことが原因と考える。登録者数に関しては、若干増加している。有効登録（実利用人数）も少し増えている。
- ・P16~19は、先に挙げたデータをグラフにしたもの。

○P20~26 令和4年度事業報告

- ・ブックスタートやブックトーク、訪問貸出、本の森事業など、子ども読書活動推進計画事業や他部局とのコラボ展示についての報告。

●運営方針の3番目「子どもと本をつなぐ読書活動の推進」で本の森事業とブックトークについてあまり周知できていないように感じる。別の会議でブックトークについてちょっと説明しただけで要望が増えた。もっと周知しなければいけない。

●運営方針の3番目について、この春、子どもたちに向けて「高島市子ども読書活動推進計画実施結果」というのが配布されたが、結果が羅列されているだけで、目を引かない。視覚的に保護者が読んでみようと思うように作らないと。興味を持ってもらえるよう改善をしてほしい。どこが担当なのか？子ども読書活動推進計画の報告や成果物について管理をしていないのか？

⇒ 社会教育課が主担当。

●運営方針の5番目（「運営体制の改善と職員の資質向上」）現在の図書館職員の配置について教えてほしい。

⇒ 正規職員は館長含め4人。拠点館（安曇川・今津）は1日の開館時間が9時間あるので、必ず2人必要（職員の勤務時間は7時間45分なので）。

会計年度任用職員は24人。拠点館に常勤で各4人。地域館（マキノ、新旭、朽木、高島）は、各2人。残り8人は、月4回～8回までの勤務形態。繁忙期や他の会計年度任用職員の有休休暇取得時の応援に入っている。

●P19の全館合計比較のグラフについて、最近になるほど減少している。これは全国的にもそうなのか？

⇒（会長回答）全体的に利用は減ってきているが、特に子どもの利用の減少が顕著。これは少子化の影響。都市部などは、極端に子どもの利用が減り始めている。

一番懸念されているのは、18歳から35歳くらいまでの世代の利用が極端に落ちてきていること。大学生協の調べでは、大学生の60%が直近のひと月で活字の本を読んだことがないとの結果が出ている。（雑誌除く）

最近は、卒業論文を出す大学も減少。一般の社会学系の学部では、ほとんど、ないため、本を読まない。就職してもほぼデジタルで、紙の書類すら見なくなる。そして子育て期に入る35歳くらい。（親が）元々本を読んでこなかったので、子どもを図書館に連れて行く習慣がない。その影響が出始めていると言える。

●高齢者（65歳以上）の利用は増えているので、そういった世代へのサービスに重点を絞っていく必要があるのではと感じる。

●いわゆる、図書館としての基本計画を高島市立図書館も作るべき。他の自治体でも計画のない部署には金をやらんというふうに変わってきてている。計画行政という言方もするが、なんらかの先々どうするんだということは、やっぱり決めておいた方がいいと思う。これは協議会がというのではなく、図書館自体が作らないといけないことなので、市の方に要求する土台作りのためにも、がんばってほしい。